

議長・副議長就任記者会見の概要

日 時：令和7年4月16日（水）
午前11時00分～11時15分
場 所：議長応接室



外山 衛 議長



日高 陽一 副議長

新議長の就任あいさつ

（外山議長）

本日の本会議におきまして、議長に選任をいただきました。日南市選出の外山衛でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議場でも申し上げましたとおり、現在、様々な課題が山積しております。執行部とともに、県政が前に進むように努力してまいりたいと思います。

自然災害も多くなることが予想されているほか、物価高騰など、様々な要因により厳しい状況にある中で、議会といたしましても、県民が安心して生活ができる環境づくりに向け、執行部としっかり連携を図りながら、県政の充実、発展に取り組んでまいりたいと思います。

できる限り努力してまいりますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。

新副議長の就任あいさつ

（日高副議長）

同じく、本日の本会議におきまして副議長に選任されました、宮崎市選出の日高陽一でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長からもお話がありましたが、本県の喫緊の課題は、深刻な人口減少問題や物価高騰による影響によって大きく落ち込んでいる地域経済の回復と活性化であると認識しております。

今後も、厳しい状況は続くと思われませんが、議長をしっかりと支えながら、円滑な議会運営、そして宮崎の発展に向けて精一杯努力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

質疑応答

【朝日新聞】

任期中にどのような議会にしたいという抱負についてお伺いします。

(外山議長)

議会は今までの長い歴史がございますから、その伝統を引き継ぎ、大きく変える必要はないと考えておりますが、執行部や県民との間に、やや距離があると感じているところです。県政の運営にあたっては協力していくことが不可欠であると考えておりますので、この距離を埋めていくことが今後の課題だと認識しています。

(日高副議長)

私も議長がおっしゃったとおり、長い歴史を引き継ぐことも重要だと思います。また、現在デジタル化ということで、プロジェクトを進めているところでもあります。公立学校において、デジタル端末を活用した教育が行われていることもありますので、県議会においても、それぞれの議員のスピード感はあると思いますが、少しずつ進めていきたいと思っています。

【読売新聞】

県民との一体感ということで、例えば、県議会議員講座といった取組などをしてはいますが、今後、県民との一体感を醸成していく上で、新たに取り組みたいことなどありましたら伺います。

(外山議長)

今のところ、新たな取組についてはまだ具体的には考えておりませんが、県議会議員講座や会派ごとの県民との意見交換の場などは、機会があるごとに設けたいと思っています。

また、一部の議員がインターンシップで学生を受け入れていますので、そこから少しずつ広がりを見せていければと考えております。現時点では極端に新たな取組を打ち出すことは難しいと考えております。

(日高副議長)

各議員の皆様には様々なところで県議会議員講座を行っていただいておりますが、議会を理解していただくためには、大変重要なことだと思っております。また、請願や陳情というのも、一般県民の方々は理解されていない部分もあると思います。

また、先ほど議長も話されました議員によるインターンシップの受け入れですが、学生に積極的に参加していただいている状況でございます。その学生の皆さんからも議会がどんなところなのかを伝えていただくなど、県民の皆様から興味を持っていただく形を作っていく、開かれた県議会に取り組んでいきたいと思っています。

【NHK】

新田原基地のF35Bの垂直着陸訓練について、地元説明会の中では、当初の説明と違うという趣旨で反発の声がありました。この問題について、議長・副議長はどのように向き合っていくつもりかお伺いします。

(外山議長)

当初の約束と違うということは非常に重大なことだと認識しております。

まずは、町民の方々にどのような影響があるのかなど実情をよく把握する必要があると考えています。九州防衛局が防音設備の補助などをしていますが、どこまで取り組むのかを探る時期かと思っておりますので、住民の方々との意見交換を密にしていくべきだと考えます。

(日高副議長)

議長のおっしゃるとおりだと思います。地域住民の方々からは本当に厳しいという意見を伺っているところですので、町民の皆様と自衛隊、双方の意見をしっかりと聞きながら、今後の対策を考えていくものと思っております。

【UMK】

まだ設置には至っておりませんが、明日、審議が予定される特別委員会の件ですが、県政の重要課題を調査するという趣旨での設置だと思います。南海トラフ対策特別委員会は設置後に、どのような道筋としていくのかなど、設置にかかる思いや目的を教えてください。

(外山議長)

南海トラフ地震に関するいろいろな情報があり、いつ発生するのか、被害の規模も分からない中で対応できるよう備えが必要だと思います。

県民に避難がいかに重要であるかなどを広め、気持ちの上での備えをするための委員会だと思っております。

決してこれで全てが解決するわけではありませんが、避難タワーなど、どこまで対応できるのかということを検討する場になるのではないかと思います。

(日高副議長)

防災減災という形でこれまでもいろいろと調査をしてきたわけではありますが、今回に関しては、南海トラフに特化した特別委員会ということでございます。

皆さん御存じのとおり、宮崎でも近い将来、南海トラフ地震が起きるのではないかという中で、しっかりと特化した形で調査を進めていきたいと考えているところです。

【読売新聞】

兵庫県議会の百条委員会をめぐる中で県議会議員個人への誹謗中傷事案が起きるなど、議会が自由に議論する上で障害となっているような事例も起きています。宮崎でそのような事例はないと思うのですが、兵庫県議会をめぐる所感と誹謗中傷への対策をもしお考えでしたらお伺いします。

(外山議長)

現在、ユーチューブなどのSNSの時代ですので、止めることはできないと思っております。どこまで対策を講じていいのか、非常に難しい問題です。

単なる誹謗中傷となっている場合もあり、私はあまりいい傾向と思っておりません。現在、これを止める方法がない状況だと思っております。

(日高副議長)

誹謗中傷に関しては議員のみではなく、学生の中でも大きな問題になっているところです。

誹謗中傷があったときに、メンタルに関するサポートや、誹謗中傷に関する専門家もいると思うので、もし何かあった場合はそうした方の力も借りながら、誹謗中傷対策を行っていかれたらと思っております。